2026 年 11 月 2 日発行

ビオトープだより第 70 号

会員・BA より ビオトープに関する情報を提供します。

特定非営利活動法人
日本ビオトープ協会
https://www.biotope.gr.jp/

1. 放棄されて 10 年以上、実家の里山の手入⑥

副会長、北海道・東北地区委員長、主席ＢＡ、（株）エコリス　佐竹一秀

アメリカザリガニの駆除



浚渫したため池のアメリカザリガニの駆除

『ビオトープだより 61 号（2026 年 2 月）』に約 50 年放置したため池の浚渫工事の状況を報告しました。浚渫した池にはアメリカザリガニ（これ以降ザリガニと表記します）が生息していましたので、今回ザリガニ駆除を試験的に行ってみました。

ため池の浚渫工事は 2024 年 7 月に終了し、駆除は翌 2025 年 5 月より開始しました。駆除方法はトラップによる捕獲とし、NPO 法人シナイモツゴ郷の会より購入したトラップ（連続捕獲装置）を使用しました。



アメリカザリガニ捕獲用のトラップ

左の写真がトラップです。アナゴカゴを二つつなぎ合わせ、片方に黒い遮光網を巻き付け、もう片方には餌のドックフードを穴あきタッパに入れて（写真の白い箱）あります。遮光室は直径 40 ㎝×長さ 80 ㎝、採餌室は直径 34cm×長さ 55 ㎝です。採餌室の入口は直径 13 ㎝程、網の目合いは 1cm です。これを池に沈めると、ドックフードが徐々に溶けて、それにザリガニが引き寄せられ網に入ってきます。ザリガニは休息するときや危険を感じると暗い場所に潜り込みます。満腹になったザリガニは隣の遮光室へ移動し休みます。連結部は返しがついているので、一度移動すると餌の方には行けません。それにより採餌室は常に低密度が維持されます、ザリガニを連続的に捕獲できる優れものです（特許取得済み）。



駆除開始です！

2025 年５月２日にトラップ設置し、５月５日に１回目の回収を行い、11 個体を捕獲しました。またウシガエルの越冬幼生（オタマジャクシ）も２個体いました。その後も週に１回程度の餌交換と回収を繰り返し、7/12 までの 70 日間に 12 回回収し、総数で 503 個体を捕獲駆除しました。

回収期間が一定間隔となっていないため、単純に比較はできませんが、１回あたりの捕獲数は７～78 個体とバラツキもあり、時期による捕獲数の傾向も確認できませんでした。なお、駆除作業は一人で実施していて、作業時間も計測含めて１時間程度かかっています。

今回の捕獲駆除の問題点

①池のサイズに対して、設置トラップ数が少ない

今回は試験的に行ったのでトラップは１個のみです。ザリガニも採り切れていません。販売元では、15～20m間隔での設置を推奨しています。ため池の周囲長が 100m程ありますので、少なくとも５個のトラップが必要となります（費用もかかりますね）。

②小型個体が捕獲できない

トラップの目合いが 1cm なので、小型個体は網をすり抜けてしまい、効率的な捕獲が難しいと感じました。なお今年、新たに小型ザリガニを対象にした小型ザリガニ用連続捕獲装置が開発販売されていますので、購入を検討しています。また、小型軽量化した従来型の連続捕獲装置も開発販売されています。興味を持たれた方は以下の NPO 法人シナイモツゴ郷の会にお問い合わせください。

・NPO 法人シナイモツゴ郷の会：**https://www.shinaimotsugo.com/**





その後の対応

右上の写真が昨年７月上旬のため池の状況です。昨年は空梅雨で、梅雨明けも早く、池の水位が低下し池底の一部が見えはじめています。水も茶色に濁り、池底を這い回るザリガニによる底泥の巻上げと考えています。ザリガニ 500 個体駆除しましたが、池内にはまだまだいると思われました。

池の水が少なくなってきたこともあり、浚渫時に底水を抜くための塩ビ管も敷設していますので、この後、池干しも実施しました。その状況については、次回以降の「ビオトープだより」に報告します。

以上